

会 議 録

| | | |
|----------|----------|---|
| 会議の名称 | | 令和５年度 第１回 福津市学校給食共同調理場運営委員会 |
| 開催日時 | | 令和５年７月２５日（火） 午前・ 午後 ３時３０分から 午前・ 午後 ４時１５分まで |
| 開催場所 | | 福津市役所 本館 大会議室 |
| 役員名 | | （１）出席 白土会長・木庭副会長・原尻委員 江上委員・西田委員・内山委員 （２）欠席 |
| 事務局 | | 石津共同調理場長・山口栄養教諭栄養教諭・柴田栄養教諭 岩佐保健給食係長・高嶋 |
| 会 議 | 議題（内容） | （１）学校給食用食器について（報告） （２）福津市第２学校給食共同調理場（仮称）について |
| | 公開・非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 |
| | 非公開の理由 | |
| | 傍聴者の数 | １名 |
| | 資料の名称 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 福津市学校給食共同調理場運営委員会規則 ・ P E N樹脂食器 普及率・安全性資料 ・ P E N樹脂食器 提供時イメージ写真 ・ 新設学校給食共同調理場の給食提供計画 |
| 会議録の作成方針 | | <input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 |
| | | <input type="checkbox"/> 要点記録 |
| | | |
| その他の必要事項 | | |

審 議 内 容 （発言者・発言内容・審議経過・結論等）

1. 開会行事

進行：高嶋

- （１）挨拶 石津共同調理場長
- （２）委嘱状交付 机上交付
- （３）委員の紹介 自己紹介
- （４）福津市学校給食共同調理場運営委員会規則について
- （５）会長及び副会長の選出
会長：白土 真二郎（津屋崎中学校長）
副会長：木庭 竜之助（津屋崎小学校長）
- （６）会長挨拶

2. 議事

進行：白土会長

（１）学校給食用食器について（報告）

（岩佐係長） 現在、強化磁器を使用しているが、かごに入れて運ぶ際に重たくなる、誤って落として破損した場合に子供のケガに繋がる可能性があるなどのデメリットがある。また、劣化により、配送中や配膳室から運ぶ際に食器が欠けることもあり、子どものケガや異物混入に繋がる。教育委員会において検討を重ね、安全性が担保できるPEN樹脂食器に変更することにした。共同調理場の受配校である津屋崎小学校及び勝浦小学校から導入し、他の学校についても順次変更する。

（白土会長） 破損の事例はどのようなものか。

（岩佐係長） 食器に振動が伝わることにより食器の底に穴があいたり、通常欠けにくい部分が欠けた事例がある。その破片が異物混入につながる。

（白土会長） 食器を運ぶ際に、どうしても振動などが加わり破損してしまう。その破片が混入した場合、どの範囲まで混入しているかがわからず、困った状況になる。

（原尻委員） 勝浦小学校は、児童が持って運んでいる。15人分程度だが、1年生にはとても重い。津屋崎小も2階に階段で運んでいるクラスがある。運ぶ労力の問題もあるが、それよりも危険である。軽くなるのはありがたい。

（白土会長） 新しい食器は、軽くて欠けたりしないということによいか。

（岩佐係長） そのとおり。

（保護者） 他の学校の導入は。

（岩佐係長） まずは、津屋崎小と勝浦小から。配送による振動があるので、まずは受配校から変更する。

（保護者） この素材は、学校給食以外にも使われているものか。

（岩佐係長） 主には学校給食で病院などでも使用されている。

（白土会長） 全国の71%で導入されていて、ずいぶん前から発売されているので、何か問題があればその間に手を打っているだろう。

（保護者） 強化磁器の食器にはうみがめのイラストがあったが、その絵は引き継がれない

のか。

(石津場長) うみがめのイラストは旧津屋崎町が共同調理場を建てたときに作ったもの。福津市はうみがめイラストの著作権を持っていないので、使えない。

(白土会長) 費用が高くなるとかあるかもしれないが、福津らしさがわかるイラストが入れられたらいいと思う。

(2) 福津市第2学校給食共同調理場(仮称)について

(岩佐係長) 児童生徒数の増加により、現在の学校給食共同調理場(以下「第1共同調理場」)からの提供が厳しい状況になり、津屋崎小学校の敷地内に新設の共同調理場(以下「第2共同調理場」)を建設している。令和6年4月から稼働する。

令和6年度から令和8年度まで、第1共同調理場から津屋崎中学校及び福間小学校の一学年分を提供する。令和9年度には新設の宮司小学校が開校し、福間小学校の児童数が減少するため、配送は3年間だけの予定。福間小学校の自校分と配送分でメニューが異ならないように、福間小学校長、共同調理場長、栄養教諭等関係者と協議する。

第2共同調理場では、津屋崎小学校と勝浦小学校に給食を提供し、令和9年度からは新設小学校に配送する計画である。

令和9年度以降、福間中学校の一部を第1共同調理場から配送する計画としているが、厨房設備を増設する余地があり、自校のみで提供できる可能性もあることから、福間中学校に関しては流動的と考えている。

(白土会長) それぞれの調理場の最大提供数は。

(岩佐係長) 第1共同調理場は今年度の児童生徒数1586人に職員を加算した1,700食程度が限界であり、無理をして作ってもらっている状況。第2共同調理場は2,000食規模。福間小学校も今年が限界だと聞いている。福間中学校は現在増築をしており、1,400食程度の予定。

(山口栄養教諭) 福間小学校の分を第2共同調理場から運ばないのはなぜか。一人で小学校と中学校の献立をたてて、栄養価を合わせるのは非常に困難だ。中学校の栄養素に合わせようとする、食材の偏りが生じバラエティに富んだ小学校の献立が作れない。福間小の一部だけを第1共同調理場で作ることになると、中学校に合わせてもらうので、食材に偏りが生じて福間小全体が今まで通りのバラエティに富んだ給食を提供できなくなる。それでもいいとの判断か。

共同調理場は、一度共同調理場と認定されれば工場扱いなので共同調理場の機能を失うことではないと考えるが、そこも含めて福間小分を第1共同調理場からとなったいきさつは。

(石津場長) 調理場の規模だけを考えると、福間小分を第2共同調理場で作るとは可能だが、2点の理由がある。1点目は、第2共同調理場稼働開始から多くの食数を調理するのではなく、段階的に増やしていきたいと考えている。2点目は、第1共同調理場で津屋崎中学校分だけを作ると、550人を超えない数となり栄養教諭が配置されない可能性がある。これは県に確認した。栄養教諭を配置して欲しいため、複数校分を作る計画を教育委員会として示した。

(山口栄養教諭) 共同調理場の運営に関することだが、給食費の徴収関係が非常に煩雑になる。食数の少ない学校は1食当たりの単価が高くなる。270円でできない可能性もある。そのあたりの考えは。

栄養教諭の配置を言っているが、共同調理場である限り、講師枠であっても県からの配置はあるはず。子どもたちにバラエティに富んだ献立を提供することを考えると、小学校分を作ること、配送が入ると津屋崎中に影響が及ぶ。早めに作らなければならない、津中だけだったらできる献立が小学校があるためにできないという状況が生じている。子どもたちのためになっているのかという思いがあり、共同調理場の運営に携わっている立場で強く反対する。

(石津場長) まず、給食費について。270円で収まらないかもしれないという考えはあるが、それでも教育委員会としてやるしかない。

次に、給食のバラエティな献立について。そういう問題もあるだろうが、それでも乗り越えてもらうしかないと場長として考える。

次に、栄養教諭の配置について。これは県が決めること。県からは配置がない可能性もあると言われている。市としては極力正規職員の配置を望んでいる。

(山口栄養教諭) 栄養教諭は正規職員の配置があるとして、第1、第2共同調理場を運営するにあたって、市の職員の配置は考えているのか。

(石津場長) 市の職員は当然配置する。

(山口栄養教諭) 責任がある立場の職員か。

(石津場長) 今、私が責任のある立場として配置されている。当然、第2共同調理場にも兼務かどうか分からないが場長を配置する。

(山口栄養教諭) 現状のとおり、会計年度職員がそれぞれに配置と考えてよいのか。

(石津場長) 基本的にはそのように配置すると考えている。

(白土会長) これ以外の案は想定されていないのか。

(石津場長) 勝浦小、福間小、福間中、新設小をそれぞれどこから運ぶのかいろいろ検討した結果、この案がベストだと判断した。

(白土会長) 福間小分を第2共同調理場で作るのは厳しいのか。

(石津場長) 物理的には可能。稼働開始時の慣れの問題と、第1共同調理場に栄養教諭が配置されないという2点が大きい。

(白土会長) 福間中の食数が多い。福間中の一部を第1共同調理場で作って、福間小を第2共同調理場で作ればいいのかと思うが。

(石津場長) 1学年が8クラスあるので、4クラスだけなど学年の一部分を運ぶというのは難しい。

(山口栄養教諭) 令和9年度から福間中の一学年分を第1共同調理場から配送するとなっている。食数的には可能な食数に見えるが、小学校の分量に換算すると、1500~1700食作ることになる。現在1800食作っているが、無理をして作っている状態。来年からは津中分だけで2釜使って作らなければならない。スパゲッティなど重量のある料理は3釜に分けて作らなければならない、女性調理員の力では混ぜることができない。そのような状況にある中で、さらに福中分を増やすという計画だが、福中の中だけで完結する考えはないのか。

(石津場長) 先ほど説明したが、令和9年度以降の福間中の500食については、福間中給食室内に厨房設備を増設することによって、自校式で給食を提供できる余地がある。令和9年度以降の計画については、精査する必要があると考えている。

(山口栄養教諭) 給食はその学校で完結させるべきだと思うので、福間中の中だけで完結できるように強く願っている。併せて、福間小についても福間小の中だけで完結できるように配慮できなかったのか。児童が増えることは5～10年前からわかっていたこと。なぜ、今になって1学年分だけ共同調理場から配送しなければならないのか。これにより、いろんなことが犠牲になる。

(原尻委員) 検討された結果というのはわかったが、自校式のメニューの方が、小学生に合ったメニューが多かった。山口栄養教諭の献立を作る話を聞いて、いろんな苦労があったとわかった。食べている側からはそれがわからないので、もう少し色どりがあればいいのと思うこともあったが、今はそう思うことも申し訳ない気持ちである。可能ならば、小学校と中学校は別の調理場に分けた方が、食べている子どものことを考えると理想的だと思う。石津課長が言っている理由は大きな理由であることは重々わかるが、ここで出た意見を事務局で検討して、会議を開く必要はないので何らかの形で委員に連絡してもらえるとありがたい。

3. その他

進行：高嶋

(岩佐係長) 共同調理場からの学校給食が滞りなく提供できるように、老朽化している調理器具等の更新や新規導入を今後も計画的に実施していく。

学校にお願い。急な休校等により給食を中止した場合、パンや牛乳の納品を止められないことがある。配膳員が間に合わない、又は配膳室に行けない際は、受け入れのご協力を。

閉会